

(2) 図る。 問題点への気づきを	① 自分の行動や性格を見つめさせる。 ② 自分の気持ちや考えを見つめさせる。 ③ 他人との関係を見つめさせる。 ④ 自分自身をどうしたいか、どうありたいかを考えさせる。	○ 自分のことや自他の関係を洞察させる。 ・ 「自分の性格を、どのように見ているの？」 ・ 「いつも、どんな気持ちになっているの？」 ・ 「○○君との関係をどう思っているの？」 ・ 「もしできるなら、どんなことをしたいと思う？」 詳しくは、☆P97(2)参照
(3) 因を改善・解決する。 問題点につながる素	① 問題行動につながる身体・生理、情緒・性格、生き方・考え、行動面の問題点を改善・解決する。(素因1) ② 問題行動に走りやすい状態を改善・解決する。(素因2)	○ 問題行動につながると思われる素因を改善・解決するために、予測診断・予防仮説の手順をふんで予防援助をする。 ○ 問題行動に走りやすい状態を改善・解決するために、予測診断・予防仮説の手順で予防援助する。
(4) する。 問題行動発生の抑制要因を強化	① 基本的な生活習慣を身につけさせる。 ② 自分自身に自信を持たせる。 ③ 不安の解消を図る。 ④ 目的を持たせる。 ⑤ 規範性を強化する。 ⑥ 耐性を強化する。	○ 基本的な生活習慣がどの程度身についているかを把握し、一番指導援助しやすいことから始める。 ○ ささいなことでも、認めたり褒めたりする。 ○ 笑わせたり、楽しいことをさせたりしながら、言いたいことを何でも言わせる。 ○ 部活動、進路などを明確にする。(到達可能な具体的なもの) ○ 規範を守った場合には、褒める。しかるときは、き然とした態度で。 ○ 我慢することの大切さを、ふだんの会話の中で意識的にとりあげる。

(8) 家族への予防援助

親の養育態度や姿勢などは、子供の素因形成・予測される問題行動発生の引き金(誘因)になる場合があるので、これらにかかわる家族の問題にアプローチすることが大切である。

基本的対応	具体的対応	対応例
(1) 1 形成する。 ラル成 ポをす	※ 「(5) ラポールの形成」の項(P.103~104)参照	
(2) 図る。 問題点への気づきを	① 家族の資料を収集する。 ② 予測される問題点への気づきを手助けする。	※ 「(6) 資料収集, 予測診断, 予防仮説」の項(P.104~105)参照 ○ 親が自分から問題に気づき、子供へのかかわり方に気づかせるようにする。 ・ 「そんなことがあったんですか。なるほど」「お子さんのことをよく御覧になっておりますね」
(3) 助する。 問題点の改善・解決を援	① 予測される問題点への対応の気づきを手助けする。 ア. 良いと思われる対応への認めを行う。 イ. 対応の修正は、気づきを原則とする。 ② 問題点への対応を手助けする。 ア. 家族の人間関係や各	○ 現在の対応努力を肯定的に認め、修正したい対応については、気づかせるようにする。 ・ 「なるほど、そうすればいいかもしれませんね」 ・ 「いつも大声でしかってばかりいて……」 → 「しかってばかり……」 → 「ええ、それではよくないんでしょうね」 ○ 家族の一人(母親など)に視点をあてるのではなく、家族全体の人間関係や養育態度なども重要であることに気づかせ、具体的な対応例を提案する。 ・ 「なるほど、○○さんは○○君をかわいくてしかたないのね」